

平成21年度バス補助路線アセスメント 対応状況

No.	路線名	関係市町村	課題	対応策…①	対応者	措置(予定)年月日	左記①に対する対応(平成22年3月時点)…②	左記②に関する現状(平成24年1月時点)	その他(左記以外に検討・実施している対応策等)
1	好摩直通線 岩手県交通 【国庫】	盛岡市	(1) ショッピングセンターへの乗入れしているが、利用者が少数 (2) 市患者輸送バスとの競合(赤坂～好摩間) (3) マイカー利用者の定着 (4) 土日利用者が少ない バスセンター発: 7時30分 好摩駅発: 17時17分	(1) ショッピングセンター乗入れのPR ① 車内広告、車体広告によるPRの検討(車体広告によるPRについてイオンに提案するなど、コストをかけない方法について検討)	岩手県交通	—	店舗規模と利用状況が玉山区住民が大半であることを考えると、広告PRによる利用促進効果は薄いと思われる。実施は考えていない。	その後の対応は行っていない。	
				(2) 運行ダイヤの見直し ① 利用者の少ないダイヤについては需要も含め見直しを検討 ・バスセンター発:7時30分 好摩駅発:17時17分	岩手県交通	22年10月予定	土日祝の利用の少ない時間帯について、時刻変更と運行本数の見直しを10月改正に向けて検討する。	23年10月1日にダイヤ改正。経路を短縮し、好摩駅～松園営業所間を運行。「小林牧場前」及び「松園営業所」バス停を市内中心部に向かうバスとの乗り継ぎ地点とし、時刻の調整、盛岡市協力の基に上屋の設置を行った。現在、利用者・沿線住民の要望を踏まえ、再度時刻の調整を図るところである。	
				(3) 運行経路の検討 ① 盛岡～玉山の需要がメインであれば路線を短縮することについて検討(車両の小型化も合わせて検討)	岩手県交通	—	「玉山支所前」から好摩駅方面、盛岡方面への幹線路線としての役割を果たしており、実施は考えていない。バス車両についても、小型車両では他路線での運用に支障をきたす為、導入は考えていない。(現在中型車で運行している。定員約50名 運用上、大型車両で運行する場合もあり)		
2	祝鼻溪線 岩手県交通 【国庫】	一関市	(1) 摺沢駅前発6時23分は通勤、通院目的には早すぎる (2) 通院利用者から13時頃の摺沢行き運行の要望がある (3) 利用者の少ないダイヤがある 摺沢駅前発: 6時23分 11時23分 12時23分 一関営業所発:14時52分 17時22分 18時22分 (4) 摺沢駅前発の最終便が14時台であり観光客、通勤利用者の利便が悪い (5) 観光資源を活用した利用促進 (6) 一関市大町商店街経由の要望がある (7) 一関営業所の待合室、営業所周辺の環境が悪い	(1) 運行ダイヤの見直し ① 摺沢駅前発6時23分は通勤、通院目的にはやや早すぎると思われることから見直しを検討(20～30分遅くしてはどうか) ② 通院目的利用者から13時台の摺沢駅行きの運行要望があることから検討 ③ 摺沢駅前発の最終ダイヤが14時台であり、観光目的利用者、通勤利用目的者の需要を満たしていないと思われるため検討 ④ 利用者の少ないダイヤについては需要も含め見直しを検討 ・摺沢駅前発:6時23分、11時23分、12時23分 ・一関営業所:14時52分、17時22分、18時22分	岩手県交通	22年4月1日実施	22年4月改正時に時刻変更する 【変更前】 一関営業所 発 9:52、10:52、11:52、13:52、14:52、17:22、18:22 【変更後】 一関駅 発 10:00、11:00、12:00、13:00、14:00、16:00、18:00 摺沢駅 発 【変更前】 6:23、8:23、9:23、10:23、11:23、12:23、14:23 【変更後】 7:03、8:33、9:33、10:33、11:33、13:33、15:33	22年12月に摺沢駅前発 7:03を6:43に変更した。	毎年発行している一関・平泉地区2次交通エアマップに当該路線の案内を記載している。
				(2) 運行経路の検討 ① 一関市～市役所については他路線もあることから、一関市大町商店街を経由する運行について検討	岩手県交通	22年4月1日実施	22年4月改正時より大町経由とする	その後の対応は行っていない。	
				(3) 一関営業所の環境改善 ① 待合室及び営業所周辺の環境改善を検討 ・待合室に運行経路や運賃などの情報を適切に提供するほか、椅子の設置など利用者の利便を図る ・国道沿いに置かれている廃車両は、悪印象を与えるので整理するなど営業所周辺の美化について検討	岩手県交通	22年4月1日実施	22年4月改正時より、一関駅を起終点とする。営業所構内・廃車両については21年度内に整理を進める。	待合室・構内の整理に努めている。	

平成21年度バス補助路線アセスメント 対応状況

No.	路線名	関係市町村	課題	対応策…①	対応者	措置(予定)年月日	左記①に対する対応(平成22年3月時点)…②	左記②に関する現状(平成24年1月時点)	その他(左記以外に検討・実施している対応策等)
3	小山線 岩手県交通 【国庫】	奥州市	(1) 利用者が減少し、21年度の補助要件割れとなった(利用者減少の原因は不明) (2) 胆江営業所全体の収入が落ち込んでいる	(1) 路線の存続についての検討 ① 2か年連続で補助要件割れとなっており、路線の存続について検討	岩手県交通 奥州市	22年2月～	・22年度 国庫補助候補から外し、22年2月実績より奥州市単独補助路線として取り扱う。 ・22年4月改正時に運行回数変更 水沢駅通り 発 8:00,12:20,15:30 二の台 発 7:15、8:45、16:10	23年7月にダイヤ改正。二の台発 8:45、13:00、16:10	
4	細浦経由高田線 岩手県交通 【県庫】	大船渡市 陸前高田市	(1) 大船渡病院発のダイヤについて、午後の利便が悪い(14時台の運行要望がある) (2) 競合路線が多数ある(碁石線、広田線、矢ノ浦線) (3) JR大船渡線との競合 (4) 高田方面から大船渡病院への通院利用者の利便、大船渡市内から細浦方面への買物利用者の利便のどちらに重きを置くのか位置付けが見えない (5) 道路が狭隘で効率的なルートとはいえない (6) バス停の破損がある	(1) 運行ダイヤの見直し ① 大船渡病院発の午後の利便が悪いので、見直しを検討(14時台の運行要望がある)	岩手県交通	22年10月 予定	高田線(細浦経由・通岡経由一立根・大船渡病院)全体で、関係市と協議の上、利用者ニーズに合った経路・時刻設定・運行本数への見直しを図る。	震災により、現在4往復での運行。この他に立根行きが2往復で運行しており、両路線併せて国庫補助路線の扱いとしている。JR大船渡線の振替輸送として、JR定期券での客扱いを行なっている。	
				(2) 運行経路の検討 ① 利用客増大のため、陸前高田市内の国道沿い大型店舗の乗入れを検討 ② 県立高田病院を終点とすることについて検討 ③ 循環バス(県立病院⇒須崎⇒権現堂⇒県立病院)を運行し、当該路線等と接続することについて検討 ④ 現在の運行ルートは高田から大船渡病院まで1時間程度要しているため、通院者の利便を考慮し、三陸縦貫自動車道経由又は国道45号の運行を検討(細浦、碁石方面から大船渡に至る路線は他にもあり) ⑤ 市境で路線を区切ることに検討	岩手県交通	22年10月 予定	①住宅街を外れる経路となるため、乗入れは行わない。 ②改正時に向けて関係市と協議の上検討する。 ③管内全系統の見直しが必要であり、かつ旅客の分散による既存路線の利用低下が懸念される。循環バスの運行は考えていない。 ④改正時に向けて協議・検討 ⑤市境付近での待機場所・バス転回場が確保できるのであれば検討したい。		
				(3) 競合路線との調整 ① 須崎～権現堂間はほとんどの路線が通過するため、同時刻に複数の路線が重複して運行されており、利用客の分散の原因になっていると考えられることから、調整を検討	岩手県交通 両市	22年10月 予定	改正時に向けて可能な限り調整を図る。(各方面からの路線が大船渡中心部で重複する事は、時間帯によっては避けられない場合もある。)		
				(4) 病院、サンリアへの情報提供ツールの提供 ① 相手方と調整のうえ、施設に時刻表配布ボックスなどの情報提供ツールを設置することについて検討 ② 行先ごとの時刻表を作成し配布することについて検討(高齢者、若者にも分かりやすいもの)	岩手県交通	—	改正の都度、時刻表を配布している。行き先ごとの時刻表作成については他エリアも含めて検討する。		

平成21年度バス補助路線アセスメント 対応状況

No.	路線名	関係市町村	課題	対応策…①	対応者	措置(予定)年月日	左記①に対する対応(平成22年3月時点)…②	左記②に関する現状(平成24年1月時点)	その他(左記以外に検討・実施している対応策等)
5	沢内線 岩手県交通 【県単】	西和賀町	(1) 競合路線を含めると7時～8時台、18時台の運行本数が過密となっている	(1) 運行ダイヤの見直し ① 日中の便を患者輸送バス利用時間帯に調整 ② 競合路線も含めて7～8時台、18時台の運行密度が過密になっているので、合理的なダイヤとなるよう検討 ③ 利用者の少ないダイヤは需要も含め見直しを検討 ・ほつとゆだ発11時23分、14時32分、17時10分 貝沢発15時35分	岩手県交通	22年4月1日 実施	土日祝日ダイヤ ほつとゆだ駅 発 17:10を運休とする。	22年12月ダイヤ改正 平日 ほつとゆだ駅 発 7:10、11:07、14:33、17:56 貝沢 発 7:10、9:10、13:10、15:45 土日祝日 ほつとゆだ駅 発 12:34、14:33、16:52 貝沢 発 7:10、9:31、15:35	
			(2) 利用者の少ないダイヤがある ほつとゆだ駅発:11時23分 14時32分	(2) 運賃体系の検討 ① 老人等の利用に対して福祉的なもので運賃の一部を手当てできないか町と協議	西和賀町 岩手県交通	22年度	「福祉乗車券」の設定について西和賀町と協議・検討する。	協議・検討に至っていない。	
			(3) 土日利用者が少ない ほつとゆだ駅発:17時10分 貝沢発: 15時35分	(3) 商店街、観光との連携 ① 地元商店街及び観光との連携による、バス券、買物券等の取組みを検討	岩手県交通	22年10月 予定	毎年10月に「バス利用促進イベント」として、西和賀町協力の下、地元商店街での割引特典・バス町内利用100円など取り組んでおり、今後も継続したいと考えている。	23年度においては、7月17日(日)に町内イベント【西和賀・銀河高原まつり】に併せて、町内バス料金100円を実施。バス利用者は162名であった。	
			(4) 路線運賃が他の路線と比較し高い	(4) フリー区間、料金上限1000円のPR ① 車内、バス停への情報掲示するなどPRを図ること ② 町の広報を利用し周知を図ること	岩手県交通 西和賀町	22年4月1日 予定	車内については、バス・リアガラス部分に利用促進PR広告を掲示している。バス停については同様の広告掲示を検討する。	実施に至っていない。24年度実施で再度検討を図る。	
			(5) 山伏線、湯打線との競合がある	(5) 車内アナウンスの改善 ① 車内アナウンスが聞きづらいとの意見があることから、改善を検討	岩手県交通	22年4月1日 予定	乗務員のマイクによるアナウンスであれば、明瞭な案内をするよう現場に周知を図る。テープアナウンスの方であればテープ交換により改善を図る。	23年10月にテープ更新を行なった。	
	(6) 町患者輸送バス、スクールバスとの競合がある								
	(7) 車内アナウンスが不明瞭である								
No.1～5 共通 (岩手県交通)			(1) バス停、車内に利用促進に係るPRなし (2) バス停には通過時刻の情報のみ	(1) バス停、車内の情報強化 ① 運行経路 ② 料金 ③ お得な情報	岩手県交通	22年4月以降	各地区、ダイヤ改正時に主要バス停に運行経路、料金等の情報案内を掲載する。	23年度においては、北上市総合事業の取組みの中で市内中心部のバス停に路線図・料金などの情報案内を掲載した。	

平成21年度バス補助路線アセスメント 対応状況

No.	路線名	関係市町村	課題	対応策…①	対応者	措置(予定)年月日	左記①に対する対応(平成22年3月時点)…②	左記②に関する現状(平成24年1月時点)	その他(左記以外に検討・実施している対応策等)
6	田老線 岩手県北自動車 【国庫】	宮古市	(1) 運行ダイヤが下校時間帯とマッチングしない(利用者アンケートでも下校時の時間帯が不便との意見がある) (2) 土日の利用者が少ない 宮古駅前発:8時05分 (3) 競合する国庫、県単路線があり、それらの路線も補助要件を満たすことが厳しくなっている (4) 市目的バスとの競合がある (ふれあい荘前～田老駅前) (5) 三陸鉄道との競合がある (田老駅前～宮古駅前) (6) 車外アナウンスがない (7) 車内のスペースが有効に活用されていない(車内広告、利用促進のチラシ等の掲示がない)	(1) 運行ダイヤの見直し ① 通学ニーズ(特に下校時刻)を考慮したダイヤを検討(宮古北高発17時台の運行の要望あり) ② 同時刻に複数の路線が重複して運行されており、利用客の分散の原因になっていると考えられることから、調整を検討 ③ 土日の運行について需要も含め見直しを検討 ・宮古駅前発:8時05分 ④ JRダイヤとの調整 ・JRダイヤと棲み分けか、接続するかの検討	岩手県北自動車	平成22年度4月中に実施	①北高生徒利用を想定して、宮古行き13:12、16:12、18:57の3便を設定。希望の時間帯としては17:49田老駅口通過の宮古行きがあるので、時刻調整で対応、もしくは17:49も北高経由にし、変則だが往路を1便神田経由を外し往復の運行回数で数を合わせる。 ②崎山以南は運行系統上、行先系統が違うが重複に見えるのは止むを得ない感あり。以北部分は間隔ある運行を維持している。 ③8時台は、前後の便が土日祝日連休となるため、この時間帯で残したい。 ④JR乗継で田老へは三鉄利用が便利で安いため、バス利用者への対応としては宮古病院・崎山方面を重視。(JR乗継客は病院行き等で接続対応)	①～④H23.3.11の東日本大震災後、田老の町内の道路家屋のほとんどが被災し、運行自体が儘ならなくなった。その後、道路の復旧に合わせ徐々に運行を開始した。現在は、運行系統、運行経路、時刻を大幅に見直し運行中。また、仮設住宅を中心とした、新たな運行系統を作り、利用者ニーズの把握調査を実施中。神田経由田老線 宮古発 8:05 9:55 17:10 田老発 8:51 10:41 17:56 従来の田老線を「グリーンピア三陸みやこ」まで延長 宮古発 12:15 15:30 19:20 グリーンピア発 13:15 16:40 20:15 崎山・樫内方面は、仮設住宅の建設に伴い、新系統を設定したり増回を行って16往復で運行を実施している。	「地域公共交通確保維持改善事業費補助金(特定被災地域公共交通調査事業)」を活用し、(宮古市・山田町・岩泉町)仮設住宅と公共施設、学校、病院、ショッピングセンター等を結ぶ新系統について実証運行を行っている。
				(2) 運行経路の見直し ① 宮古～田老間は三陸鉄道と発車時刻がほぼ重複している便が多数あることから、競合する便については宮古駅～崎山等の運行にするなど、路線の効率化を検討	岩手県北自動車	平成21年12月ダイヤ改正にて措置済み・今後継続実施	路線が並行と捉えればそうだが、現実として終点迄通し客は極少。往路は病院・崎山までと、そこから田老までの利用パターン多い。重複ではないと考えている。	H23.3.11の東日本大震災により、三陸鉄道の北リアス線も被災し、現在野田駅～小本駅間が不通(バスによる代行輸送有)また、宮古駅～小本駅間についても1日4往復の運行のみとなっている。そのため、バスへの依存度が高まっているため、小本線・田老線・崎山線・宮古病院線の他、グリーンピア線・中里・樫内線を新たに作り、対応している。(平日46往復・土日祝31往復)	
				(3) 競合路線との調整 ① 事業者の乗降調査をもとに、路線の最適化を検討	岩手県北自動車	平成22年度実施を検討	平成22年度中にOD調査機器の導入を検討しており、より多くの乗降データをもとに田老線・小本線・岩泉線と併せて系統再編の検討を実施し、補助要件を充足する運行計画に結び付けたい。	OD調査機器の導入は未実施。「地域公共交通確保維持改善事業費補助金(特定被災地域公共交通調査事業)」を活用し、(宮古市・岩泉町)乗降調査、アンケート調査を実施中。今後、路線の最適化に反映させる予定。	
				(4) 三陸鉄道との連携 ① 三陸鉄道、バスの一体的な時刻表の作成について検討	岩手県北自動車 県地域振興室	平成22年度検討	岩手県北バス宮古地区時刻表の中には既に106急行表示のページに、東北新幹線、三陸鉄道北リアス線、JR山田線の時刻表を一覧できる形で記載して、利用者への利便性を提供している。ただ、地域の利用者にとっては、田老・小本方面のバス・三陸鉄道を含めた一体的時刻表が望ましいと思われるので、検討したい。	宮古地区の時刻表は、現在、エリア毎に山田地区・宮古地区・岩泉地区と3区分で提供している。震災後、避難所・仮設住宅の方々のニーズの変化に伴い、たびたび、ダイヤ改正を実施しているため、一体的な時刻表にはなっていないが、今後、三陸鉄道の北リアス線、新幹線、106急行のダイヤ見直しを受け、検討したい。	
				(5) 買物、観光等の強みを活かした利用促進 ① 地元商店街及び観光との連携による、バス券、買物券等の取組みを検討すること ② 観光客には系統が分かりづらいため、周知の工夫を検討	宮古市 岩手県北自動車	平成22年度措置	①宮古市と連携する形で地元商店街とバス利用による買い物客の集客策に是非取り組みたい。 ②宮古駅前に系統や路線図入り案内看板が平成22年2月9日に設置された。もし(4)の時刻表が作成可能ならば、同様の路線図マップが入れば観光客には便利。	平成22年11月から平成23年3月で宮古市内環状バス実証運行事業を実施したが、その後の取組は今のところ無い。路線図については、震災後増えた系統を含め、検討中。	
				(6) 運行ダイヤ周知の工夫 ① 使い勝手のよい地域ごと時刻表の作成を検討(コンパクト、シールタイプなど) ② バス停からQRコードで時刻表を取得できるシステムを検討	岩手県北自動車	平成22年度検討	①宮古地区総合時刻表として全戸新聞折込等を実施しているが、パーソナル型時刻表への転換に向けて地域を絞って試験的な実施を考えたい。 ②例えば、西ヶ丘団地～宮古駅前系統のように比較的多くの利用者が見込まれる系統について利用頻度をチェックしテストしてみたい。	①パーソナル時刻表は、避難所毎、仮設住宅毎のデータを福祉協議会へ提供し、一部作成をして頂いた。	
				(7) 現状の利用促進対策の継続実施 ① 路線バスツアー ② 割引クーポン券発行による利用喚起と需要調査	宮古市 岩手県北自動車	平成22年度実施予定	①②とも、引き続き来年度も継続実施したい。今後、宮古市と内容・回数・時期・予算について詰めを行う。また、宮古市、当社のHPを利用した、路線バスを使う日帰り観光コースの紹介を実施する予定。	平成22年度については、実施済み。今後については、4月からのDCに向けて、可能な範囲で検討を行う。現時点では、予定なし。	
				(8) 車外行先アナウンスの実施	岩手県北自動車	平成22年度実施予定	運転士による口頭案内を推進するとともに、平成22年度は音声合成放送装置を導入し、車外行先アナウンスを行う予定。	継続実施中	

平成21年度バス補助路線アセスメント 対応状況

No.	路線名	関係市町村	課題	対応策…①	対応者	措置(予定)年月日	左記①に対する対応(平成22年3月時点)…②	左記②に関する現状(平成24年1月時点)	その他(左記以外に検討・実施している対応策等)
				(9) 車内スペースが有効に活用されていないので、車内公告等による営業収入の向上を検討	岩手県北自動車	平成22年度実施予定	広告以外に、車内ギャラリ的な有料スペースとしての使用を模索。(例えば、写真やイラスト展示など)現状は地域の景気が非常に厳しく一般企業の広告が少ない。広告費の値段等の見直しを検討し、確保をしたい。また、自治体からの広告も是非要望したい。	現状は無料で提供しているケースが多い。(震災後、公的な広報が多くなったため)	
7	大野線 岩手県北自動車 【国庫】	久慈市 洋野町	(1) 運行ダイヤが下校時間帯とマッチングしない (2) 利用者の少ないダイヤがある 久慈駅発: 8時00分 陸中大野発: 16時53分 (3) フリー乗降区間の設定がない (4) 久慈市民バス、洋野町行政目的バスとの競合がある (5) 利用者に路線維持に関する危機感が見られない (6) 車外行先アナウンスがない	(1) 運行ダイヤの見直し ① 通学ニーズ把握のためのアンケート調査の実施を検討 ② 通学ニーズを考慮したダイヤを検討 ③ 利用者の少ないダイヤは需要も含め見直しを検討 ・久慈駅発: 8時00分 陸中大野発: 16時53分 (2) フリー乗降区間の導入検討(洋野町区域) ① 洋野町区域については、利用者利便を考慮し、フリー乗降区間の導入を検討すること	岩手県北自動車 久慈市 洋野町 県北振興局	平成22年度 4月～7月実施予定	①アンケート調査は実施中。(大野高校の生徒・久慈高校の生徒) ②久慈市から大野高校、大野から久慈の高校への生徒の通学時間(登校時・下校時)に合わせての見直しを検討。 ③施設利用割引等を設定して利用促進を図る。	アンケート調査の回答を参考にし、生徒の利便性向上を図るためダイヤ改正を実施した。 H22.6.1ダイヤ改正(久慈高校対応) H22.10.1ダイヤ改正(久慈高校対応廃止、大野高校対応)	
				(3) イベント等を活用した利用促進策を継続実施 ① イベント等のバス利用者に対する特典の付与 ② 保育園児の絵を活用したギャラリーバスの運行 ③ バス体験乗車 ④ 地域行事、小学校行事への路線バスの活用促進PR	岩手県北自動車 久慈市 洋野町	平成22年度 実施予定	平成21年度実施した企画に加えて、大野線利用促進担当者会議において新たな試みも検討中。	「久慈環境緑化まつり」「久慈秋まつり」「久慈冬の市」「洋野町一人一芸祭」「北東北ナニヤドヤラ大会」「洋野まちなかフェスタ」「ひろのまきば天文台月食・星空観察会」「大野キャンパス夏休み・冬休み工作体験」等、両市町のイベント、観光施設へのバスツアー企画を実施し、路線の利用促進を図った。また、小学生を対象に「路線バス乗り方教室」を開催し、路線バスへの興味・関心が深まり、路線利用促進の一助とした。	
				(4) 車外行先アナウンスの実施	岩手県北自動車	平成22年度 検討	久慈営業所には久慈市民バスを含めて3両で運用しているが、音声合成放送装置取付車は1両のみで有るので、今後装置の導入を検討するとともに、運転士による口頭での案内を推進する。	H22年度全車音声合成装置取付済み。帽子掛けマイクによる運転士の口頭での案内も継続中。	
8	東部A線 岩手県北自動車 【県庫】	盛岡市 岩手町	(1) 鉄道ダイヤとの接続が悪い (2) 路線が長く、集落間の距離もある(山間が多い) (3) マイカー利用が定着している (4) マイカーと比較し車内環境が悪い (5) 山間部の狭隘な道の運行であり、乗り心地が悪い (6) 車外行先アナウンスがない	(1) 運行ダイヤの見直し ① IGRとの接続を考慮したダイヤの見直しを検討 ② 沿線に企業があり、通勤に対応したダイヤについて検討	岩手県北自動車	平成22年度 検討	この系統の利用者については、沼宮内地区の病院・役場・銀行・買物等が主な目的の高齢者であり、IGRを乗り継ぎ盛岡・二戸方面への旅客は少ない。ニーズ調査の上、検討したい。 現状、運行回数が1回だけであり、関連系統としても4回である。この地区における通勤手段は、ほぼマイカーであり、これをバス利用に転換するとなると相当なアイデアと施策が必要になる。	引き続き検討中。実施には至っていない。	盛岡市で70歳以上の方を対象に「まちなかおでかけバス」を実証実験中。(2010年6月から、中心市街地活性化、生活経済対策、公共交通利用促進を目的に、社団法人岩手県バス協会とIGRいわて銀河鉄道株式会社が「まちなか・おでかけバス事業」を試行実施しています。この事業は、岩手県交通、岩手県北バス、JRバス東北の共通バスを発行する「まちなか・おでかけバス」とIGRいわて銀河鉄道の運賃を割引いた「玉山区列車でおでかけきっぷ」の発売を行うものです。

平成21年度バス補助路線アセスメント 対応状況

No.	路線名	関係市町村	課題	対応策…①	対応者	措置(予定)年月日	左記①に対する対応(平成22年3月時点)…②	左記②に関する現状(平成24年1月時点)	その他(左記以外に検討・実施している対応策等)
				(2) 運行経路の検討 ① 循環運行の妥当性について検討 ② いわて沼宮内駅～陸中板橋～大渡間を往復運行にすることについて検討 (いわて沼宮内駅～秋浦～大渡間の利用者が少数)	岩手県北自動車	平成22年度 検討	① 転向場所の確保と、南山形方面の利用者が遠回りになり、利用者減少の可能性が否めない。 ② 狭隘区間も多く、安全性の問題を解決する必要がある。	引き続き検討中。	
				(3) IGRとの連携 ① IGRとバス定期券の一本化の検討 ② 共通割引制度の導入を検討	岩手県北自動車	平成22年度 検討	運行時間帯の関係で、通勤については、朝はIGRとの接続は可能だが、帰りの便の接続が現状無いのでそこをどうするかが問題点。 その上で可能性がある場合は、検討の余地あり。	事業者単独では難しいので、関係行政機関とも協議し、検討をたい。	「IGR・バス乗継通勤定期券」IGR各駅～盛岡駅間、岩手県交通バス・岩手県北バス(盛岡駅～盛岡バスセンター間)を乗り継いで利用できる、便利でお得な割引定期券です(岩手県北バスはIGR青山駅～盛岡駅間のみ)。 「すごe-きっぷ」IGR(菓子駅～盛岡駅間)、岩手県交通・岩手県北バス(盛岡駅～盛岡バスセンター間(都心循環バス「でんでんむし」を含む)が1日乗り降り自由のお得なきっぷです。
				(4) 運賃体系の見直し ① 運賃をある程度一定にすることについて検討	岩手県北自動車	平成22年度 検討	ジェイアールバス東北から引き継ぐ際に一部運賃の見直し、左右回りの是正は行っている。その上で、運賃の遠距離通減の強化の実施等により、運賃の上限額を一定限度額で押さえる方法についての検討を行う。	検討は行っているが、実施に至らず。(補助要件割れの懸念有。)	
				(5) 通勤利用者の確保 ① 企業を対象とした割引制度について検討 ② 企業近隣へバス停を設置することについても検討	岩手県北自動車	平成22年度 検討	① 現状、具体的な企業が見当たらず、要望としてもない。運送収入の増を見込みながらの検討となる。 ② 現状は特に要望がない。	未実施	
				(6) 車内環境改善 ① 車内ラジオ放送、音楽放送	岩手県北自動車	平成22年度 検討	お客様の中にも、ラジオを流した方がいいという方と、うるさいので流さないほうが好いという方があり、現在は、流さない形としている。今後ニーズ調査を行ってみたい。	放送設備はあるが、災害情報や緊急時のみ放送することとしている。	
				(7) 沿線地域の子供たちによる、車内アナウンスの導入 ・次停留所の案内アナウンスなどを沿線地域の子供たちにさせることより、新たな利用者を開拓できないか検討	岩手県北自動車	平成22年度 検討	案内放送製作費用との兼ね合いが出てくるが、検討が必要と思われる。	宮古地区での実証運行の際に実施した経緯があり、費用も掛かることから、今後の検討としている。	

平成21年度バス補助路線アセスメント 対応状況

No.	路線名	関係市町村	課題	対応策…①	対応者	措置(予定)年月日	左記①に対する対応(平成22年3月時点)…②	左記②に関する現状(平成24年1月時点)	その他(左記以外に検討・実施している対応策等)
				(8) 地元商工会と連携した利用促進策の検討 ① 高額バスカード購入者に対して地元商品券を進呈するなど、商工会と連携した利用促進策を検討	岩手県北自動車	平成22年度検討	①岩手町を含めて地元商工会と連携する形で商店街の買物客増とバス利用促進とに是非取組みたいと考えている。	使用済みバスカードをためて、応募してもらおうと、旅行商品の割引券や、宿泊券が当たる、「けんぼくe-バス」ポイントキャンペーンを実施。	
				(9) 運行車両の検討 ① 乗車人員が10～15名程度であるので、小～中型車両への切替について検討 ② 降車ボタンの位置を、老人でも座ったままで容易に押せる位置に変更することについて検討	岩手県北自動車	実施済み 平成22年度検討	①運行車両は全て、小型・中型車両で運行。 ②降車ボタンは、シート背裏若しくは腰板に取り付けているが増設には費用とハード面から検討する必要がある。	②H23年度に実施済み。	
				(10) 接客・接遇の改善	岩手県北自動車	平成22年度実施	社内の安全指導協議会を通しての指導・改善、社外接遇講習会への参加による改善、添乗実施による指導の推進。	継続実施。	
				(11) 車外行先アナウンスの実施	岩手県北自動車	平成19年度実施済み	平成19年度内に全車両に音声合成放送装置を取り付け、車外行先案内を実施済み。ボリュームの関係で聞こえずらくなっているものがないか点検を実施。	継続実施。	

平成21年度バス補助路線アセスメント 対応状況

No.	路線名	関係市町村	課題	対応策…①	対応者	措置(予定)年月日	左記①に対する対応(平成22年3月時点)…②	左記②に関する現状(平成24年1月時点)	その他(左記以外に検討・実施している対応策等)
9	吉ヶ沢線 岩手県北自動車 【県単】	葛巻町 岩手町 一戸町	(1) 鉄道ダイヤとの接続が悪い (2) 通院、買物利用者にとっては吉ヶ沢発7時50分は早い (3) 利用者が少ないダイヤがある 末代橋発:7時05分 吉ヶ沢発:17時00分 (5) 末代橋発の最終便は16時台であり、通勤・通学の需要を満たせない (6) フリー乗降区間の設定考慮 (7) マイカーと比較し車内環境が悪い (8) 山間部の狭隘な道の運行であり、乗り心地が悪い (9) 車外行先アナウンスがない	(1) 運行ダイヤの見直し ① IGRとの接続を考慮したダイヤの見直しを検討	岩手県北自動車	平成22年度 検討	①利用者の意向を確認した上で、検討。(ニーズ調査の実施) ②については、奥中山中学校へ通う生徒が宇別・家向から中山まで、スクールとしての利用がある。その収入も含めて見直す場合は、検討する必要がある。 ③アンケート調査、乗降調査を実施してきたが、現状の運行本数(3往復)では、限界があり、回数増となると、補助要件割れが確実視される。 ④ ②の理由により、どうしても回送的な面が発生している。	継続協議中。今後住民の意向調査を検討。	
				(2) 運行経路の検討 ① 奥中山駅の乗り入れについて検討	岩手県北自動車	平成22年度 検討	現実的には、利用者が殆どない。沼宮内方面へは、そのままバスで接続になっている。	継続協議中。	
				(3) IGRとの連携 ① IGRとバス定期券の一本化の検討 ② 共通割引制度の導入を検討	岩手県北自動車	平成22年度 検討	運行時間帯の関係で、通勤については、朝はIGRとの接続は可能だが、帰りの便の接続が現状無いのでそこをどうするかが問題点。 その上で可能性がある場合は、検討の余地あり。	事業者単独では難しい面があるので、関係行政機関とも協議し、検討をしたい。	「IGR・バス乗継通勤定期券」IGR各駅～盛岡駅間、岩手県交通バス・岩手県北バス(盛岡駅～盛岡バスセンター間)を乗り継いで利用できる、便利でお得な割引定期券です(岩手県北バスはIGR青山駅～盛岡駅間のみ)。 「すごe-きっぷ」IGR(巣子駅～盛岡駅間)、岩手県交通・岩手県北バス(盛岡駅～盛岡バスセンター間(都心循環バス『でんでんむし』を含む)が1日乗り降り自由のお得なきっぷです。
				(4) フリー乗降区間の導入検討(一戸町地域・葛巻町地域)	岩手県北自動車	平成22年度 検討	中山～吉ヶ沢区間について検討を行いたい。但し、公安委員会との協議が必要。	公安と今後協議。	
				(5) 通勤利用者の確保 ① 企業を対象とした割引制度について検討 ② 企業近隣へのバス停の設置することについても検討	岩手県北自動車	平成22年度 検討	①現状、具体的な企業が見当たらず、要望としてもない。運送収入の増を見込みながらの検討となる。 ②現状は特に要望がない。	未実施	
				(6) 車内環境改善 ① 車内ラジオ放送、音楽放送	岩手県北自動車	平成22年度 検討	お客様の中にも、ラジオを点けた方がいいという方と、うるさいのでないほうが好いという方があり、現在は、点けない形にしている。	放送設備はあるが、災害情報や緊急時のみ放送することとしている。	

平成21年度バス補助路線アセスメント 対応状況

No.	路線名	関係市町村	課題	対応策…①	対応者	措置(予定)年月日	左記①に対する対応(平成22年3月時点)…②	左記②に関する現状(平成24年1月時点)	その他(左記以外に検討・実施している対応策等)
				(7) 地元商工会と連携した利用促進策の検討 ① 高額バスカード購入者に対して地元商品券を進呈するなど、商工会と連携した利用促進策を検討		平成22年度検討	①岩手町・一戸町・葛巻町を含めて地元商工会と連携する形で商店街の買物客増とバス利用促進とに是非取組みたいと考えている。	使用済みバスカードをためて、応募してもらおうと、旅行商品の割引券や、宿泊券が当たる、「けんぼくe-バス」ポイントキャンペーンを実施。	
				(8) 運行車両の検討 ① 乗車人員が10～15名程度であるので、小～中型車両への切替について検討 ② 降車ボタンの位置を、老人でも座ったままで容易に押せる位置に変更することについて検討	岩手県北自動車	実施済み 平成22年度検討	①運行車両は全て、小型・中型車両で運行。 ②降車ボタンは、シート背裏若しくは腰板に取り付けているが増設には費用とハード面から検討する必要がある。	②H23年度に実施済み。	
				(9) 接客、接遇の改善	岩手県北自動車	平成22年度実施	社内の安全指導協議会を通しての指導・改善、社外接遇講習会への参加による改善、添乗実施による指導の推進。	継続実施。	
				(10) 車外行先アナウンスの実施	岩手県北自動車	平成19年度実施済み	平成19年度内に全車両に音声合成放送装置を取り付け、車外行先案内を実施済み。	継続実施。	
	No.6～9 共通 (岩手県北自動車)		(1) バス停、車内に利用促進に係るPRなし (2) バス停には通過時刻の情報のみ	(1) バス停、車内の情報強化 ① 運行経路 ② 料金 ③ お得な情報	岩手県北自動車	平成22年度実施	①運行系統図の掲出を検討 ②大人・子供複数乗車の場合の割引方法や、各種割引制度の表示。 ③各種割引情報、企画乗車券等の周知を実施。	①②③とも時刻表への記載を実施し、周知している。今後、車内・バス停への表示を検討。	

平成21年度バス補助路線アセスメント 対応状況

No.	路線名	関係市町村	課題	対応策…①	対応者	措置(予定)年月日	左記①に対する対応(平成22年3月時点)…②	左記②に関する現状(平成24年1月時点)	その他(左記以外に検討・実施している対応策等)
10	軽米線 南部バス 【国庫】	軽米町	(1) 利用者が減少し、21年度の補助要件割れとなった (2) 軽米町内の乗降は全体の1割程度しかない (3) 軽米～八戸を通しての利用者が少ない (4) 利用者の少ないダイヤがある 十一日町発:7時00分 軽米病院発:16時42分 18時31分	(1) ① 路線の存続についての検討 ・平成21年度において補助要件割れとなっており、路線の存続について検討	南部バス 軽米町	H22.1.12 H22.1.19	系統を分割、市ノ沢線(ラピアバスターミナル～泥障作・道の駅なんごう～大洋公園前)と新軽米線(大洋公園前～西里～軽米病院)とし、路線を維持することで同意。	H22.4.1実施 ・系統を分割し、市ノ沢線は国庫補助路線、新軽米線は軽米町の単独補助路線として、補助金を頂きながら維持している。	
				(2) 運行ダイヤの見直し ① 利用者の少ないダイヤは需要も含め見直しを検討すること ・十一日町発:7時00分 ・軽米病院発:16時42分、18時31分 ② 総体の需要を考慮し運行回数を検討(朝、昼、夕の3往復に限定し、乗車密度を上げるなど)	南部バス	H22.4.1 実施予定	①の利用の少ない便は、減便とする。(十一日町発 7:00、軽米病院発 16:42、18:31) ②新軽米線の運行回数は、平日3往復、土・日祝日2往復とする。	①H22.4.1実施 ・アセスメント実施当時は、八戸市住民が軽米町へ往復、軽米町住民が八戸市へ往復できるダイヤとしていたが、八戸市住民の軽米町への往復利用は、あまり見られなかった。 ・八戸市住民が軽米町へ往復できる便(利用者の少ない便。十一日町発 7:00、軽米病院発 16:42、18:31)を減便し、運行の効率化を図った。 ②H22.4.1実施 ・新軽米線は、軽米町住民が八戸市へ往復利用することを考慮した運行時刻、運行回数とした。 ・平日3往復 軽米病院発 7:01、8:55、13:25 ラピア発 11:08、13:28、16:25 ・土日祝日2往復 軽米病院発 8:55、14:51 ラピア発 13:28、15:28	H22.4.1実施 ・新軽米線全便の乗降調査を毎日行っている。市ノ沢線については、H22.9月とH23.6月に平土日全便の乗降調査を行った。今後も調査を継続し、利用実態の把握に努めたい。
				(3) 運行経路の検討 ① 町民バスをフィーダー線とし、当該路線に接続させる方法について検討	軽米町 南部バス		①現行では調整が難しい。 ・新軽米線は、市ノ沢線の延長線の運行のため変更は難しい。町民バスが変更可能か今後検討する。	H24.4月以降実施予定 ・運行見直し後の状況を注視している段階であり、経路変更については検討に至らなかった。今後、状況を見ながら検討することとしたい。	H22.4.1実施 ・これまでは八戸市中心街発着だったが、中心街・JR本八戸駅経由ラピア発着とし、買い物利用者の利便向上を図った。
				(4) 高校通学利用者の確保 ・高校通学利用者に対する運賃助成の検討 ・中学生に対して、八戸方面へのバス通学が可能であることのPR	軽米町 南部バス		・運賃助成の検討は、軽米町で行う。 ・運行見直し後の運行状況を見ながら、軽米町広報等を活用しPRしたい。	H22.6.7実施 ・軽米高校生徒を対象に、バス通学ポイント制度を実施した。 ・(現状)ポイントの付与実績がほとんどないため、今後はPRの手法を検討したい。また、助成対象の軽米高校生徒に限らず、利用促進について広く呼びかけていきたい。	H23.10.1実施 ・系統分割化(H22.4.1実施)に伴い、運賃は「大洋公園前」で一旦精算、降車時に差額を精算することとしたが、利用者からは「分かりにくい」、「面倒」などの意見を頂戴していた。 ・利用者の不便解消のため、「大洋公園前」での途中精算を廃止、降車時一括精算に変更した。
No.10 共通 (南部バス)			(1) バス停、車内に利用促進に係るPRなし (2) バス停には通過時刻の情報のみ	(1) バス停、車内の情報強化 ① 運行経路 ② 料金 ③ お得な情報	南部バス	H22.4.1 実施予定	・車内に補助路線の一覧表を掲示する。 ・スペース的に可能な場合は、経路図・運賃等掲出する。	H22.4月実施 ・車内に補助路線の一覧表を掲示。毎年年度初めに、補助路線の一覧表を掲示することとした。 ・(現状)車両によっては、剥がれてしまっていたり、陳腐化して文字が読みにくくなっているものが見受けられる。今後は、定期的に確認や交換を行うこととする。 H24.4月以降実施予定 ・経路図、運賃等の掲出には至らなかったため、今後行っていく。	・現在ホームページ、手帳式時刻表に補助路線であることを掲載している。今後も継続して情報を公開し、利用促進につなげていきたい。 H22.3月、12月軽米町実施 ・軽米町内のバス路線を網羅した「軽米町総合時刻表」を作成。町内各戸に配布し、公共交通の重要性を啓蒙した。